

翻訳

C.クー・ラティモア ・ E.チャオ・リン・ヤン著
「ツーリズム・ジェンダー研究」

——(The Sage Handbook of Tourism Management 所収)——

“Tourism Gender Studies” by Catheryn Khoo-Lattimore and Elaine Chiao Ling Yang
in *The Sage Handbook of Tourism Management: Application of Theories and Concepts to Tourism*,
Sage Publications Ltd., 2018, pp. 38-48.

渡部 美智子*
WATANABE Michiko

This paper provides a tentative translation of the article “Tourism Gender Studies” by Catheryn Khoo-Lattimore and Elaine Chiao Ling Yang in *The Sage Handbook of Tourism Management: Application of Theories and Concepts to Tourism*, Sage Publications Ltd., 2018. This paper aims to map the trajectory of gender studies in tourism. In order to do so, Khoo-Lattimore and Chiao Ling Yang explore the trend of methods used since the publication in 1979 of the first gender study in tourism and draw some conclusions of the future agenda.

キーワード： ジェンダー (Gender)、ツーリズム・ジェンダー研究 (Tourism Gender Studies)、旅行者 (Tourist)

1. 解説

本稿は Sage Publications 社が 2018 年に出版した『観光マネジメントハンドブック—ツーリズムに関する理念、概念、学問的アプローチ』(*The Sage Handbook of Tourism Management: Applications of Theories and Concepts to Tourism*, Sage Publications Ltd.)の第 1 部「ツーリズムへのアプローチ」(Part 1 Approaching Tourism)に収められた、キャサリン・クー・ラティモアとエレヌ・チャオ・リン・ヤンによる第 5 章「ツーリズム・ジェンダー研究」(Tourism Gender Studies)の解説と翻訳である。

著者のキャサリン・クー・ラティモアは、オーストラリアのグリフィス大学の上級講師である。博士号は、ニュージーランドのオタゴ大学で取得しているが、学士・博士の教育はマレーシアのマラヤ大学で受けている。現在の研究対象は、観光客とゲストの行動に関するもので、

女性、家族、幼い子供たちに情熱的に焦点を当てている。彼女はまた、アジアの視点から女性・家族・幼児といったセグメントを理解すること、そして彼らの旅行経験と行動が、異文化間でどのように異なるかに特に興味を持って研究している。

共著者のエレヌ・チャオ・リン・ヤンも同じくオーストラリアのグリフィス大学の観光・スポーツ・ホテル経営学部のアソシエイト講師である。グリフィス大学で観光学の博士号を取得している。研究の関心は主にアジアの観光、女性旅行者、観光客のリスク認識の分野にあり、旅行者としてのツーリズムにおける女性に関連する問題の調査、アジアのツーリズムや個人消費者の社会的影響に関する研究などに取り組んでいる。

両名ともアジアにルーツがあり、研究対象にもアジアの女性を含んでいることがわかる。

本論文は、ツーリズムにおけるジェンダー問題について、1979 年のツーリズムにおける最初のジェンダー研究

* 大阪観光大学観光学部/旅行事業

の出版から、現在に至るまでの多くの論文や出版物を調査し、移り変わりを概観し、将来どうあるべきかを考えているものである。

観光におけるジェンダー研究は、1970 年代の 2 件から、2010 年代には、156 件と、徐々に注目されてきていることがわかる。また、研究分野の調査においては、約半数が消費者の観点からの研究で、旅行動機や行動などに関することということであるが、キャリア障壁や昇進といった、日本でも観光のツーリズムの現場で問題になっているジェンダーギャップの研究があるのが、興味深い。

日本では、2003 年に石森 (2003) が、国立民族学博物館調査報告として、9 本の観光とジェンダーに関する論文をまとめている。その中で、安福 (2003) は、観光とジェンダーを巡る問題をあげ、観光の現場では、不安定な就労形態が、特に女性に多いという問題があり、ジェンダーによる職業の固定化が顕著であることを指摘している。また、塩路 (2003) は、英国のコッツウォルズ地域において、才津 (2003) は、岐阜県白川村において、観光における女性の労働問題に焦点を当てている。また、女性の観光行動についての研究については、工藤 (2003) が、京都における旅行者の女性優位について考察し、観光を担うホストとゲストの双方に女性が多く、自律的意思を持ち、相互の関係を高めている、と述べている。

石森 (2003) が論文をまとめたから 20 年近くの時が流れ、ツーリズムにおけるジェンダー問題については、少し環境の変化があると思われる。男女雇用機会均等法が浸透し、女性の社会進出が進んでいる。女性の旅行に対する社会障壁も少なくなりつつあると思われる。しかしまだまだ観光の現場では職業の性別による固定化が残っていて、観光現場におけるジェンダー問題はなお存在すると思われる。

本論文においては、今後の課題としてジェンダー研究は、単なる女性性のものでなく、男性性だけのものでもなく包括的なアプローチをしなければならないとしている。さらには、「トランスジェンダー」という視点も含める必要があるとしている。ジェンダー差が少なくなりつつあるが、まだまだ残る問題に対しての研究がさらに必要である。ジェンダー研究に関する理解と知識を深めることで、ツーリズムにおける現状の認識に繋がり、将

来の課題とその解決策を模索することを期待する。

訳出にあたり、原文の gender、tourism、tourist は、いろいろな意味合いも含むので、そのままジェンダー、ツーリズム、ツーリストとした。

なお本稿は、本学の 2021 年「共同研究事業」(学内公募)において採択された研究課題「観光学の理論と応用に関する基礎的研究—Sage Handbook of Tourism Management (2018)の抄訳とアジア圏における主要観光理論・概念の応用例の把握—」(代表者：小槻文洋)の成果の一部である。

2. 翻訳

はじめに：

歴史的な観点から見ると、観光は男性的な起源を持っている。「ツーリスト」という用語が出現し始め、18 世紀半ばにはポピュラーになったが、通常は男性のことを指した。それは楽しみや興奮を求め、エキゾチックな異国、場合によっては外国の女性を探検した男性のことであった (Enloe, 1989; Graburn & Jafari, 1991)。女性が一般的な旅行市場の半分を占め、一部のニッチな市場ではさらに多くを占めるようになり、「ツーリスト」の概念は男性だけのものではなくなった (Harris & Wilson, 2007)。しかし、現代の観光空間はいまだに性差を反映し、性的特色が付与されている (Pritchard & Morgan, 2000)。これは、セックス・ツーリズム産業や、性的な女性の身体が普通に見られる観光促進資料を通して証明されている (Pritchard & Morgan, 2000; Small, 2016)。他の多くの社会科学分野に匹敵するように、ツーリズムにおけるジェンダー研究は、1970 年代後半に西洋のフェミニスト運動の第 2 波の結果として出現した。それ以来、この分野は徐々に成長し、1995 年に観光研究の専門誌『観光年報 (Annals of Tourism Research)』において、Margaret Byrne Swain がジェンダー研究に関する特別号を発行して、重要な段階に達した。これに続き、ツーリズムにおけるジェンダー研究の多くの本 (Apostolopoulos et. al, 2001; Swain & Momsen, 2002; Pritchard et. al, 2007; Khoo-Lattimore & Mura, 2016; Khoo-Lattimore & Wilson, 2016) が編集されたり、専門誌の特別号 (Bowen, 2005, 2008) が組まれたりしている。これらの成果にも関わらず、ジェンダー研究は、ツーリズムにおいては重要とは

されてはいない。

この背景において、この章はツーリズムにおけるジェンダー研究の軌跡をたどることを目的としている。そのために、Henderson(1994)と Henderson & Gibson (2013)によって行われたものを拡張した形式での文献のレビューを提示する。彼らの枠組みは、レジャー研究におけるジェンダー論文の研究開発を論証することを目的としており、そのため、たった 9 つのレジャー専門誌から引用している。Figueroa-Domecq、Pritchard、Segovia-Perez、Morgan、Villace-Molinero は、2015 年の新しい出版物で、ツーリズム・ジェンダー研究の評論を提示しているが、彼らのレビューは、ツーリズムの専門誌に焦点を合わせていない。したがって、ツーリズムの分野に焦点を合わせたジェンダー研究の最新の知識の軌跡を提供することにより、現在のレビューは既存のレビューを補完し、広げていく。次のセクションでは、観光専門誌におけるより広範囲はレビューの構造や方法を紹介し、この分野におけるジェンダーの出版物のパターンに光をあてるつもりである。1979 年のツーリズムにおける最初のジェンダー研究の出版以来使われている方法の傾向を探る。ジェンダー学問の様々な段階を支える重要な考えについても、ツーリズム分野におけるこれらの理論の影響という観点から議論していく。最後に、将来の課題が何であるか、何ができるか、何をなすべきか、というような研究結果から何らかの結論を導き出す。

ツーリズム・ジェンダー研究の調査：方法

ツーリズムにおける既存のジェンダー研究の広範な理解を得るために、2016 年 5 月から 10 月の間に体系的な文献レビューを実施した。このレビューは A B D C (Australian Business Deans Council) Journal Quality List 2013 に基づいている。A B D C リストには 60 のツーリズムに分類される専門誌があるが、その中で 48 の専門誌のみが検討された。除かれた専門誌は、4 つのツーリズムに焦点を当てていないもの (イベント管理や遺産の専門誌など)、2 つのフランス語やスペイン語などの外国語で出版された記事、6 つの C ランクの専門誌が含まれる。6 つの C ランクの専門誌は、主要な学術データベース (Taylor & Francis、Ingentaconnect、Sage、Science Direct、Emerald Insight など) のいずれにもリストに入

れられておらず、ほとんどのデータベースが提供する検索機能を使用して関連記事を検索できないため、除外した。

残りの専門誌は、Henderson & Gibson(2013)を参考に gender、female、woman、feminism という 4 つの検索用語を使い調査した。タイトルまたは特定されたキーワードの中に前述の用語のいずれかを含む研究記事は、レビューに使用した。1979 年から 2016 年の間に公開された合計 325 件の記事を特定し、新しいレビューに入れた。内容の分析は、出版年、専門誌、研究トピック、筆者のアイデンティティ、研究方法により実施した。

ツーリズム・ジェンダー研究の進化

325 件の時間的分布を図-1 に示している。女性に関する最初のツーリスト研究は 1979 年に出版され、1990 年以前は 9 件しか出版されていない。ツーリズムにおけるジェンダー研究は、21 世紀になって初めて身近なものになってきている。全体的に観光学の進歩と比較して、入手できるジェンダーと観光に関する研究は比較的限られているということ、ここで特定した 325 の記事が指し示している。以下の分析で示しているように、これらの記事の多くは、ジェンダーの本質的な概念を検討しておらず、ジェンダーを単なる人口統計学的変数と見なしている。

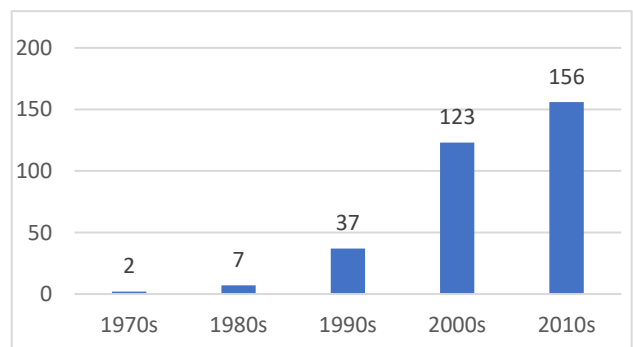


図-1 出版年別のツーリズムにおけるジェンダーに関する記事の数

出典：Latimore & Yang (2018), pp.39, Figure 5-1

表-1 に示されているように、『観光研究年報 (Annals of Tourism Research)』は、主題に関する最も多くの記事を公開して、ツーリズムにおけるジェンダー研究に関す

る考え方を進める上で、重要な役割を果たしている。これはおそらく、社会学研究に対する専門誌の関心と、ジェンダーの問題との間の整合性に起因している。ジェンダーの問題は人類学と社会学の理論に本質的に基づいているのである。

表-1 ジェンダー研究の主要ツーリズム専門誌

主要 機関紙	研究数	%
観光年報	35	10.80%
ツーリズム・マネージメント	29	8.90%
余暇ツーリズム研究	17	5.20%
トラベル&ツーリズム・マーケティング	15	4.60%
ツーリズム・レビュー・インターナショナル	15	4.60%
ツーリスト研究	15	4.60%
旅行調査ジャーナル	14	4.30%
ツーリズム	13	4.00%
ホスピタリティ&ツーリズム調査	11	3.40%
ツーリズムにおける現代の問題	10	3.10%
ツーリズム分析	10	3.10%

出典:Latimore & Yang(2018), pp.39, Table5-1

調査トピック、参加者のアイデンティティ、調査方法による分析

分析の第 2 段階として、調査トピック、参加者のアイデンティティ、調査方法によって、選択した記事を調査した。表-2 は、選択した記事が取り上げている研究分野をまとめたものである。

表-2 研究分野のリスト

研究分野	研究数	%
ツーリスト研究	154	47.40%
レジャー・トラベル	143	
ビジネス・トラベル	7	
レジャー&ビジネス・トラベル	4	
ツーリズムの職場と雇用	69	21.20%
目的地と地域社会の開発	42	12.90%
批評/概観	20	6.20%
観光教育	16	4.90%
旅行に関する書籍の分析	13	4.00%
ツーリズムの販促物の分析	9	2.80%
その他	2	0.60%
合計	325	

出典: Latimore & Yang(2018), pp.41, Table5-2

表-2 に示す通り、ジェンダーに関する調査のほぼ半数は、消費者の観点から行われ、旅行のすべての段階での旅行者の動機、行動、経験、意思決定に関する調査が含まれている。

これらの中で、レジャー旅行に関する研究はビジネスに関する研究をはるかに上回っている。これはおそらく、ビジネスにおける女性は最近の現象と考えられ、女性に関する出版物は 1990 年代になってようやく現れ始めたからである。325 件の記事の 5 分の 1 では、ツーリズムの職場と雇用におけるジェンダーを調査しており、観光およびホテル部門の女性（および男性も）の管理、昇進プロセス、キャリア障壁、社会進出の戦略のジェンダーの問題に焦点を当てている。ジェンダーは、目的地や地域開発の中でも一般的に議論されている。女性の仕事と雇用の問題というこのテーマは、都市以外の目的地と地域開発に焦点を当てた 42 本の研究で顕著である。他のあまり出版されていない題材には、過去の女性旅行者の伝記や自身の民俗学の著作などがあり、ツーリズムの販促物において女性の身体に関することを正当化してきたことを議論する研究はまだ少ない。

表-3 ツーリスト研究領域内のトピック

トピック	1970 年代	1980 年代	1990 年代	2000 年代	2010 年代	合計
経験	-	-	2	28	23	53
行動	-	1	3	12	25	41
サービス	-	1	4	14	19	38
マーケティング	-	1	5	17	14	37
動機	1	-	3	12	12	28
意思決定	1	-	3	12	8	24
文化と遺産	-	-	2	12	10	24
利益	1	-	-	9	8	18
制限	-	-	3	8	6	17
リスク	-	-	1	9	7	17
セクシュアリティ	-	-	1	10	6	17
一人旅	-	-	1	9	4	14
技術	-	-	-	4	7	11
食研究	-	-	1	3	6	10
意義	-	-	-	8	2	10
ショッピング	-	-	1	1	8	10
注視	-	-	-	4	3	7

出典: Latimore & Yang(2018), pp42, Table5-3

注: 一つの記事がいくつかの研究トピックに分類できることもある。

ツーリストの研究におけるジェンダー研究の普及を考慮して、表-3 は、154 の論文の詳細を示している。旅行の経験、旅行行動、マーケティング、サービスは 1980 年代に始まり、過去 15 年間で最も人気のある研究トピックとして継続的に支持されている。2000 年代後半以降、

ジェンダー研究が、目立って増加して、研究題材の多様性も増加している。ジェンダーのツーリストの研究としては、リスク、一人旅、セクシュアリティ、ショッピング、文化や遺産といった新しい題材もある。

表-4 出版年による参加者のアイデンティティ

参加者のアイデンティティ	研究数	%
西洋	158	48.60%
アメリカ人	56	
西洋人(一般的に)	22	
オーストラリア人、ニュージーランド人	19	
英国人	18	
スカンジナビア人(ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク)	10	
スペイン人	10	
カナダ人	9	
ボルトガル人	5	
オランダ人	3	
その他	6	
アジア	47	14.50%
中国人(台湾人)	15	
アジア人(一般)	7	
日本人	6	
韓国人	3	
インドネシア人	3	
ベトナム人	3	
その他	10	
中南米	11	3.40%
アフリカ	8	2.50%
中東	2	0.60%
他地域	23	7.10%
トルコ人	10	
イスラエル人	9	
イラン人	3	
南太平洋の島々の人	1	
異文化間/国際研究	33	10.10%
該当なし	29	8.90%
分類なし	14	4.30%

出典：Latimore & Yang(2018), pp.43, Table5-4

注：「一般」というのは、特定の地域内の複数の国の出身の参加者を指している。例えば、「アジア人(一般)」で分類された研究は、アジアの様々な国からの参加者が含まれる。「その他」とは、特定の国からの参加者を含む研究を含むが、この国に関する研究の数は、比較的重要でない(2以下)ため、国籍は表では特定せず、「その他」に分類した。「分類なし」の場合は、一部の研究ではデータを収集した目的地を報告しているが、サンプルの国籍や文化的背景は報告していない。「該当なし」は、概論や抽象的な研究論文、一次データの収集を伴わない研究などが含まれる。(例：観光販促資料の分析など)

我々は、以前の研究で検討されてきた意見を調査することにも興味がある。予想される通り、これまでのツー

リズムにおけるジェンダー研究のほとんどは、西洋の視点に基づいていた。過去 40 年間の、選択した 325 件の記事のうち、アジアの経験に焦点を合わせた研究は、15%未満である。アジアの女性旅行者に関する研究は、1990 年代に日本の女性ツーリストに関する 2 件の研究 (Creighton1995、Lang et al. 1994)で明らかになった。2000 年代に 5 件の研究が確認された。その中では、日本の女性が研究の焦点であったものがあり、(例：Cai & Combrink, 2000;Hashimoto, 2000)、中国の女性(例：Huang, 2006) やアジアの女性(例：Teo & Leong, 2006)の研究も出始めた。韓国の女性の意見(例：Kim et al., 2011, 2013)やマレーシアの女性の意見例 Asobolla et al., 2013)が含まれるようになり、地理的境界が拡大し続けていることが明らかである。世界の他の地域の女性や男性の声は未調査のままであり、中南米、アフリカおよび中東の女性の研究は、それぞれわずか 3.4%、2.5%、0.6% であるが、検討中である。

方法論に関して言えば、20 の記事が抽象的であり概論の論文である(表-5 参照)。選択した文献の半分は、量的方法を採用している。特に Henderson(1994)と Henderson & Gibson(2013)がツーリズム・ジェンダー学問の 3 期としたものに分類される研究である。この期間の間は、研究者は、性別の違いを統計的な説明や性差の比較として使っている。女性中心の研究もまた、女性の旅行マーケットの類型と特徴を特定する量的アプローチを支持している。

表-5 研究方法と出版年

	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	計	%
量的方法	1	3	15	54	88	161	49.50%
質的方法	1	3	17	56	56	133	40.90%
混成方法	0	0	1	6	4	11	3.40%
該当なし	0	1	3	7	8	20	6.20%
合計	2	7	36	123	157	325	

出典：Latimore & Yang(2018), pp.44, Table5-5

一方、女性の詳細な経験を考慮し(4期)、ジェンダーの概念を調査し(5期)、ジェンダーと、年齢や性別、人種といった人口統計の属性の交わりを研究し(6期)といった、質的方法が研究に使われている。質的方法は、調査方法として詳細な取材を採用しているものが多く、

一方少数のものは、ケーススタディの手法(例: Spracke et al., 2013)、集団に焦点を当てる(例: Stone and Nichol, 1999)、参加者の観察(例: Truong et al., 2014)である。少数の研究は(325 のうちの 11 本)、混合の研究方法である。

幅広い範囲の理論的な枠組みが、選択した文献において、引用されていた。一般的な理論と展望には、ポスト構造的フェミニズム(Berdychevsky et al., 2013)、ポストコロニアル主義(Teo & Leong, 2006)、Foucault (1978)の権力言説(Jordan & Gibson, 2005)、Urry (1990)のツーリストの視線(Asbollah et al., 2013)、ターナー(1969)のリミナリティ(Berdychevsky & Gibson, 2015)、Goffman (1979)のジェンダーの枠組み(Chhabra et al., 2011)、フェミニストの地理学、および文化地理学(Pritchard & Morgan, 2000)が含まれている。ツーリズム・ジェンダーの学問における傾向を提示され、我々は今、将来の研究のために、将来予想される問題が何であるかを熟考している。

新たな問題と今後の課題

我々は、文献の大まかな分析を、Henderson & Gibson (2013)が、2006年から2010年までに出版した9つのレジャー専門誌と分析研究のみを対象として行った既存のジェンダーレビューから、Figueroa-Domecq et al. (2015)が1980年代から2012年までに出版されたツーリズム専門誌に焦点を当てていない記事をレビューしたもので、広げている。比較すると、我々の研究は、1979年から2016年までの48のツーリズム専門誌の325の記事を含んでいる。表-1では、我々は、ツーリズムにおけるジェンダーに関する出版物の増加に勇気づけられており、統計は、大学研究機関において、ジェンダー問題に対する継続的な関心の指標であると考えている。表-1に示されている数値は、様々なイベントや協会における話題の発展と相まって、ツーリズムにおけるジェンダー研究の将来について楽観的に思える。例えば、2017年のクリティカル・ツーリズム研究会議において、「現在と未来: ジェンダー・民族性・セクシュアリティ・アイデンティティ」というテーマがあった。さらに、オーストラリアのツーリズム・ホスピタリティ教育評議会(CAUTHE)やツーリズム教育未来構想(TFEI)など、

観光のジェンダー研究を議論する専門の観光団体の中に、特別な影響力のある団体がある。

また、本を含む複数の出版物(例: Khoo-Lattimore & Mura, 2016)やツーリズム専門誌の特別号(例: 「ホスピタリティとツーリズムの仕事に関する批判的な目」が12月の『ホスピタリティ・ツーリズム・マネジメント』誌〔特集 pp.123-56〕に掲載されている)、さらには、ツーリズムの女性研究(WAIT)、観光の平等、ジェンダー・ツアーの学術グループの出現により、我々は楽観的になっている。

表-2 および表-3 は、観光販促資料における身体の対象性に関する十分でない研究に注目している。関連して、Higgins-Desbiolles は、最近の TRINET²⁾の議論において、「観光業に奴隷にされた女性、観光業における性的虐待や暴力、搾取されている女性の仕事、観光によって被害を受けた目的地の女性、に対しての考えがほとんどない」、と発言している。この報告は、現在我々の発見によって、経験的に裏付けられているので、将来の研究者はツーリズム・ジェンダー研究の中で、これらのサブトピックを調査する可能性がある。これらのようなジェンダーの問題は、学術研究のための政府の資金提供機関の、政治的および社会的課題にも対応していて、より具体的な社会変革の取り組みにつながる可能性がある。さらに、TRINET では、高等教育機関における女性に関する会話があったが、出版された研究の中にこれに関連する問題に関するものは、少ないと、我々は注目している。2015年のレポート「ツーリズム・アカデミーのジェンダーギャップ: 男女平等の統計と指標」は、ツーリズム専門誌には掲載されていないが、学界においてこのギャップを埋めるためには、より経験的な研究がなされる必要があるということを強調している。そうすることで、ジェンダーの研究者が、自分たちに関する問題をよりよく認識し、他のツーリズムの背景において、学界におけるジェンダー平等に関して、進展した理論的枠組みを適用し、ジェンダー平等を推進することが望まれる。表-3の結果からのもう一つの観察は、ツーリズムのジェンダーとテクノロジーを調査する研究が不足しているということである(325件中合計11件の論文)。我々は、これはテクノロジーが本来的に男性的であるという推定に起因しているのではないかと思ひ、これが真実であるかどうか、

そしてこれらの真実の意味の議論が求められている。ジェンダーとテクノロジーの関係の調査は非常に不足していて、非常に価値がある。テクノロジーにおけるジェンダー／性別の観点の厳密性をもう一度考え、テクノロジーの研究課題を形作る助けになる。

表-4 では、ジェンダーの論題は、一貫して西洋的な観点からアプローチされていることが明らかである。アジアの観点からのジェンダーに関する研究は乏しく、より包括的な学術性を求められたときに、特に問題になる (Richter, 1995)。アジアの学界もまた、学術著作の中で、権力のジェンダー化された構造に関する問題を、徐々に焦点をあて始めているため (Khoo-Lattimore, 2018)、アジアの人の声に焦点を当てる、および／或いはアジアの学者によるツーリズム・ジェンダーの出版物が増えると、我々は期待している。事実、執筆中、アジアのツーリズムにおけるジェンダーに関する研究の最初の編集物が出版されている (Khoo-Lattimore & Mura, 2016)。さらに、Khoo-Lattimore & Wilson の著作「女性と旅」(2016) には、旅行の自由と制限に関連するアジアの女性の重要な価値を取り上げている章が含まれている。(例：Tavakoli & Mura, 2016; Yang, 2016)。さらに、表-4 では、南アメリカ、アフリカ、中東の非西洋、非アジアの旅行者の声をとらえるために、ツーリズム調査の緊急の必要性があると確認している。ジェンダーは微妙な差異があり、ツーリズムの行動と実践に対して重要な意味を持っていることを考えると、(Khoo-Lattimore & Prayag, 2015)、将来の研究のために、多様な声と多様なジェンダーの声が議題に上がるべきである。これに関連して、ツーリズムのジェンダー研究において欠落している声を表現している、交差性の観点の可能性を見出している。交差性の研究と同じくらい複雑であるが、継続的な認識論的調査を通じて、および (または) 調査と並行して、これは実現できると期待している。この調査が「表現の危機」を超越できる可能性があることに、好奇心をかきたてられる。

認識論的に探究し、超越するというこの探求において、我々は、学者が方法論的多様性を考慮するよう促したい。我々の 325 件の記事の研究方法の分析では、すべてではないにしてもほとんどの研究が、むしろ従来の手法を採用していることがわかった。ジェンダー研究には、アイ

デンティティ (および現実) が流動的で複合的であるという議論が含まれていることが多く、ジェンダーの学者は、複雑で面倒で、はかない社会文化的問題を説明しようと考えているため、我々はすでに、我々の研究の問題に着手する新しい独特の方法を考え始めている。例えば、Khoo-Lattimore & Gibson (2015) は、業界のエンゲージメント・イベントのシリーズと、実際のホテルで女性のガールフレンドの休暇に関する実験やフォーカス・グループ・インタビューをセットしたものを組み合わせた。彼らの分析は、ガールフレンドの休暇の経験の、前・最中・後に、業界関係者が述べた女性の旅行のニーズについての会話の考慮している。

また、表-5 を作成する際に、我々は、研究者のアイデンティティとツーリズム研究への影響に焦点を当てた研究が不足していることに注目した。Porter & Schanzel (2017) は、女性研究者とそのジェンダーであることが、フィールドワークにどのような情報を与えるか、あるいは妨げるか、に焦点を当てているが、我々もまたツーリズム・ジェンダー研究者のペルソナのなかにより多くの再帰性や洞察力を求め、身元の流動性が研究にどのような影響を与えるかを考察する。

包括的な文献レビューを提供する努力にもかかわらず、この章の我々の仕事は、学術書のような他の形式の出版物を考慮していない。しかし我々はすでにジェンダー研究に関する本と本の章の存在に注目していて、それ自体がツーリズムにおけるジェンダー研究に関する理解と知識を進めている。我々は、将来学者が研究の中で、これらを考慮することを奨励する。また、我々が分析をしている最中に、最近の出版物 (Khoo-Lattimore & Gibson, 2015; Yang et.al., 2016) の一部が、レビュー作業に利用したデータベースに取り込まれていないことを発見したことに注目することも重要である。キーワードによる、より信頼性の高い検出ができるシステムの実験が継続中ですが、同時に、どんな厳しい文献であっても、このように弱点があることを受け入れている。したがって、ジェンダー研究に興味のあるツーリズム学者にとって、この分野の研究の進展に遅れないようにするために、我々が認定している既存のネットワークに関与することは有益であると思われる。

さらに、この研究で採用されたジェンダーの検索用語

は、「female」または「woman」に重点を置いていた。以前のジェンダーのレビュー (Henderson & Gibson, 2013) で述べられているように、我々は「ジェンダー」と女性に関連する言葉 (例: female、woman、feminism)

に言及したが、男性の用語には言及していない。「feminine」を唯一のジェンダーとし、「masculine」が一般的なものである、とする一部の論者もいる (Butler, 1990; Wittig, 1983) 一方で、最近の文献では、均質な男性性を仮定するのではなく、ジェンダーを男性的なものとの領域として捉えるように警告している (Mura & Khoo Lattimore, 2011)。したがって、ツーリズム・ジェンダー研究の今後の研究課題は、検索用語に男性や男性性、または「トランスジェンダー」を含める必要があり、「ジェンダー」を、単なる男性および/または、我々のケースでは女性としてだけではなく、より包括的なアプローチとして取り扱い、この「ジェンダー」という言葉により複雑な意味合いを求めて調査しなければならないことである。Khoo-Lattimore & Mura (2016) の本では、性別を反映した関係性の多様性と複雑さを伝えるために、「ジェンダー」という言葉がずっと使われていた。そうすることで、この本は、女性解放論の女性の問題を議論するだけではなく、男性研究者のアイデンティティにおける、女性性と男性性の問題を調査している。例えば、Lim & Mura (2016) は、アジアの女性性の法制化を通じてアジアの男性のアイデンティティを反映し、「異なる男性性と女性性がどのように相互作用して...アジアにおける権力のジェンダーに基づく政治的・社会文化的構造を形成するか」(2016: 3)ということに対して、我々の理解を深めた。同じ本の中で、Rawat & Khoo-Lattimore (2016) は、彼女たちが暮らす家父長制のコミュニティに従属していると推測されてきたアジアの先住民族女性の間、さまざまな形のポストモダンの男性性を明らかにした。このような理解は、「ジェンダー」を、ツーリズムにおいて、将来の経験の知識生成のための認識論的要素として使用する可能性に貢献する。

最後に、我々の研究は、1979 年の最初のツーリズムのジェンダーの出版から現在まで、できる限り多くの専門誌出版物を網羅することで、幅を広げることを目的としている。研究支援のための予算などの研究資源が制限さ

れたり、重要と見なされる出版物の種類が大学の規定によって制限されたり (本の章は対象外)、時間と教育の負担により制限されたりしているため、ジェンダーの学識面での分析は含んでいない。したがって、将来のジェンダー研究の将来の発展のため、現在の進捗状況を詳細に調査するために、今後の研究ではそのような試みを行うことを勧める。

【原著注】

- 1 ヴァレン・スミスは、「観光の風味を作る女性」を観光研究年報 (6.1: 49-60) に掲載した。これは、女性の経験を考慮した、観光誌の最初の記事である。
(Valene L. Smith (1979) 'Women the taste-makers in tourism. *Annals of Tourism Research*, 6(1), pp.49-60. [https://doi.org/10.1016/0160-7383\(79\)90094-X](https://doi.org/10.1016/0160-7383(79)90094-X))
- 2 TRINET は、国際的な観光研究と教育コミュニティを結びつけるオンライン・ディスカッショングループである。

【原著 参考文献】

- Apostolopoulos, Y., Sonmez, S. F., & Timothy, D. J. (Eds). (2001). *Women as producers and consumers of tourism in developing regions*. Westport, CT: Praeger.
- Asbollah, A. Z. B., Lade, C., & Michael, E. (2013). The Tourists gaze: From the perspective of a Muslim woman. *Tourism Analysis*, 18(6), 677-90.
- Berdychevsky, L., & Gibson, H. J. (2015). Phenomenology of young womens sexual risk-taking in tourism. *Tourism Management*, 46, 299-310.
- Berdychevsky, L., Gibson, H., & Poria, Y. (2013). Womens sexual behavior in tourism: Loosening the bridle. *Annals of Tourism research*, 42, 65-85
- Bowen, H. E. (2005). Female travelers -Part I [Special issue]. *Tourism Review International*, 9(2), 119-227.
- Bowen, H. E. (2008). Female travelers -Part II [Special Issue]. *Tourism Review International*, 12(2), 89-165.
- Butler, J. (1990). *Gender trouble: Feminism and the subversion of identity*. New York: Routledge.
- Cai, L. A., & Combrink, T. E. (2000). Japanese female travelers: A unique outbound market. *Asia Pacific Journal of Tourism Research*, 5(1), 16-24
- Chhabra, D., Andereck, K., Yamanoi, K., & Plunkett, D.

- (2011). Gender equity and social marketing: An analysis of tourism advertisements. *Journal of Travel & Tourism Marketing*, 28(2), 111-28.
- Creighton, M. R. (1995). Japanese craft tourism. Liberation the crane wife. *Annals of Tourism Research* 22(2), 463-78.
- Enloe, C. (1989). *Bananas, beaches, and bases: Making feminist sense of international politics*. Berkeley, CA: University of California Press.
- Figueroa-Domecq, C., Pritchard, A., Segovia-Perez, M., Morgan, N., & Villace-Moliner, T. (2015). Tourism gender research: A critical accounting, *Annals of Tourism Research*, 52, 87-103.
- Foucault, M. (1978). *The history of sexuality: Volume 1: An introduction*. New York: Vintage Books.
- Goffman, E. (1979). *Gender advertisements*. New York: Harper & Row.
- Graburn, N. H. H., & Jafari, J. (1991). Introduction: Tourism social science. *Annals of Tourism Research*, 18(1), 1-11.
- Harris, c., & Wilson, E. (2007). Travelling beyond the boundaries of constraint: Women, travel and empowerment. In A. Pritchard, N. Morgan, I. Ateljevic & C. Harris (Eds.), *Tourism & gender: Embodiment, sensuality and experience* (pp. 235-50). Oxford, UK: CABI.
- Hashimoto, A. (2000). Young Japanese female tourists: An in-depth understanding of a market segment. *Current Issues in Tourism*, 3(1), 35-50.
- Henderson, K. A. (1994). Perspectives on analyzing gender, women, and leisure. *Journal of Leisure Research*, 26(2), 119-37.
- Henderson, K. A., & Gibson, H. J. (2013). An integrative review of women, gender, and leisure: Increasing complexities. *Journal of Leisure Research*, 45(2), 115-35.
- Huang, R. (2006). A study of gender differences: The travel behaviour of Chinese international students studying in the UK. *Tourism*, 54(1), 63-9.
- Jordan, F., & Gibson, H. (2005). 'We're not stupid... But we'll not stay home either': Experiences of solo women travellers. *Tourism Review International*, 9(2), 195-211.
- Khoo-Lattimore, C. (2018). The ethics of excellence in tourism research: A reflexive analysis and implications for early career researchers. *Tourism Analysis*.23(2), 239-248. (注: 原著出版時は *Tourism Analysis* に in press と表記されていたが、翻訳時に出版年・巻号・ページ数が確定している。)
- Khoo-Lattimore, C., & Gibson, H. J. (2015). Understanding women's accommodation experiences on girlfriend getaways: A pragmatic action research approach. *Current Issues in Tourism*, Advance online publication. doi: 10.1080/13683500.2015.1068745.
- Khoo-Lattimore, C., & Mura, P. (Eds.). (2016). *Asian genders in tourism*. Bristol, UK: Channel View.
- Khoo-Lattimore, C., & Prayag, G. (2015). The girlfriend getaway market: Segmenting accommodation and service preferences. *International Journal of Hospitality Management*, 45, 99-108.
- Khoo-Lattimore, C., & Wilson, E. (Eds.). (2016). *Women and travel: Historical and contemporary perspectives*. Oakville, ON: Apple Academic Press.
- Kim, M.-J., Lee, c.-K., & Chung, N. (2013). Investigating the role of trust and gender in online tourism shopping in South Korea. *Journal of Hospitality & Tourism Research*, 37(3), 377-401.
- Kim, M.-J., Lee, M. J., Lee, C. -K., & Song, H. -J. (2011). Does gender affect Korean tourists' overseas travel? Applying the model of goal-directed behavior. *Asia Pacific Journal of Tourism Research*, 17(5), 509-33.
- Lang, C.-T., O'Leary, J. T., & Morrison, A M. (1994). Activity segmentation of Japanese female overseas travelers. *Journal of Travel & Tourism Marketing*, 2(4), 1-22.
- Lim, T. S., & Mura, P. (2016). Asian gendered performance in tourism. In C. Khoo-Lattimore & P. Mura (Eds.), *Asian Genders in Tourism* (pp. 40-52). Bristol, UK: Channel View.
- Munar, A. M., Biran, A., Budeanu, A., Caton, K., Chambers, D., Dredge, D., ... Ram, Y. (2015). *The Gender Gap in the Tourism Academy: Statistics and Indicators of Gender Equality*. Copenhagen, Denmark: While Waiting for the Dawn.
[http://eprints.bournemouth.ac.uk/22373/1/FINAL%20GenderGapReport WWFD%20\(1\).pdf](http://eprints.bournemouth.ac.uk/22373/1/FINAL%20GenderGapReport%20WWFD%20(1).pdf)
- Munar, A. M., Chambers, D., Khoo-Lattimore, C., & Biran, A. (2017). Gender and The Tourism Academy [Special Issue].

- Anatolia*, 28(4).
- Mura, P., & Khoo-Lattimore, C. (2011). Young tourists, gender and fear on holiday. *Current Issues in Tourism*, 15(8), 707-24.
- Porter, B. A., & Schanzel, H. A. (Eds.). (2017). *Feminities in the field: Tourism and Transdisciplinary Research*. Bristol, UK: Channel View.
- Porter, B. A., & Schanzel, H. A. (Eds.). (2018). *Feminities in the Field*. Bristol: Channel View.
- Pritchard, A., & Morgan, N. J. (2000). Constructing tourism landscapes: Gender, sexuality and space. *Tourism Geographies*, 2(2), 115-39.
- Pritchard, A., Morgan, N., Ateljevic, I., & Harris, C. (Eds.). (2007). *Tourism and Gender: Embodiment, Sensuality and Experience*. Oxford, UK: CAB1.
- Rawat, K., & Khoo-Lattimore, C. (2016). The impact of masculinities in the researcher-respondent relationship: A socio-historical perspective. In C. Khoo-Lattimore & P. Mura (Eds.), *Asian genders in tourism* (pp. 53-64). Bristol, UK: Channel View.
- Richter, L. K. (1995). Gender and race: Neglected variables in tourism research. In R. W. Butler & D. Pearce (Eds.), *Change in tourism: People, places, processes* (pp. 71-91). London: Routledge.
- Small, J. (2016). Holiday bodies: Young women and their appearance. *Annals of Tourism Research*, 58, 18-32.
- Spracklen, K., Laurencic, J., & Kenyon, A. (2013). 'Mine's a pint of bitter': Performativity, gender, class and representations of authenticity in real-ale tourism. *Tourist Studies*, 13(3), 304-21.
- Stone, G. J., & Nichol, S. (1999). Older, single female holidaymakers in the United Kingdom: Who needs them? *Journal of Vacation Marketing*, 5(1), 7-17.
- Swain, M. B. (1995). Gender in tourism [Special issue]. *Annals of Tourism Research*, 22(2), 247-421.
- Swain, M. B., & Momsen, J. H. (Eds.). (2002). *Gender/tourism/fun(?)*. New York: Cognizant Communication.
- Tavakoli, R., & Mura, P. (2016). Iranian women traveling: Exploring an unknown universe. In C. Khoo-Lattimore & E. Wilson (Eds.), *Women in travel: Historical and contemporary perspectives* (pp. 85-100). Oakville, ON: Apple Academic Press.
- Teo, P., & Leong, S. (2006). A postcolonial analysis of backpacking. *Annals of Tourism Research*, 33(1), 109-31.
- Truong, V. D., Hall, C. M., & Garry, T. (2014). Tourism and poverty alleviation: Perceptions and experiences of poor people in Sapa, Vietnam. *Journal of Sustainable Tourism*, 22(7), 1071-89.
- Turner, V. W. (1969). *The ritual process: Structure and anti-structure*. London: Routledge & Kegan Paul. [邦訳 | V.W. ターナー (富倉光雄訳) 『儀礼の過程』新装版、新思泉社、1996 年]
- Urry, J. (1990). *The tourist gaze: Leisure and travel in contemporary societies*. London: Sage. [邦訳 |]
- Wilson, E., & Little, D. E. (2008). The solo female travel experience: Exploring the 'geography of women's fear'. *Current Issues in Tourism*, 11(2), 167-86.
- Wittig, M. (1983). The point of view: Universal or particular? *Feminist Issues*, 3(2), 63-9.
- Yang, E. C. 1. (2016). Risk perception of Asian solo female travelers: An auto ethnographic approach. In C. Khoo-Lattimore & E. Wilson (Eds.), *Women in travel: Historical and contemporary perspectives* (pp. 139-58). Oakville, ON: Apple Academic Press.
- Yang, E. C. 1., Khoo-Lattimore, C., & Arcodia, C. (2016). A narrative review of Asian female travellers: Looking into the future through the past. *Current Issues in Tourism*, 20(10), 1008-27.

【引用 参考文献】

- 石森秀三 (2003) 「序文」『国立民族学博物館調査報告』37 巻、pp. 1-4.
- 安福恵美子 (2003) 「観光とジェンダーを巡る諸問題」『国立民族学博物館調査報告』37 巻、pp. 1-4.
- 塩路有子 (2003) 「英国コッツウォルズ地域の民宿経営における女性の役割」『国立民族学博物館調査報告』37 巻、pp.55-69.
- 才津祐美子 (2003) 「文化遺産の保存／活用装置としての民宿と女性労働：白川村荻町地区の事例から」『国立民族学博物館調査報告』37 巻、pp. 71-95.

工藤泰子 (2003) 「京都観光と女性」『国立民族学博物館調査報告』37 卷、pp. 127-140.